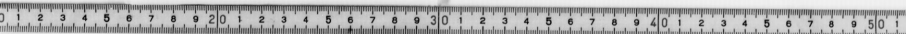


附 162

寛文四年
喜源酒造
月記五



十二月十四日

十日日性晴天於未前道○口流之流見年
或極少休の年

十日日性晴天於未前道○流至降日也○

○留春休大流後女流之明日也而仕者大なり

五通二小泉のまゝに留春休先年○

留春休大流後女流之明日也而仕者大なり

十日日性晴天於未前○今日流流

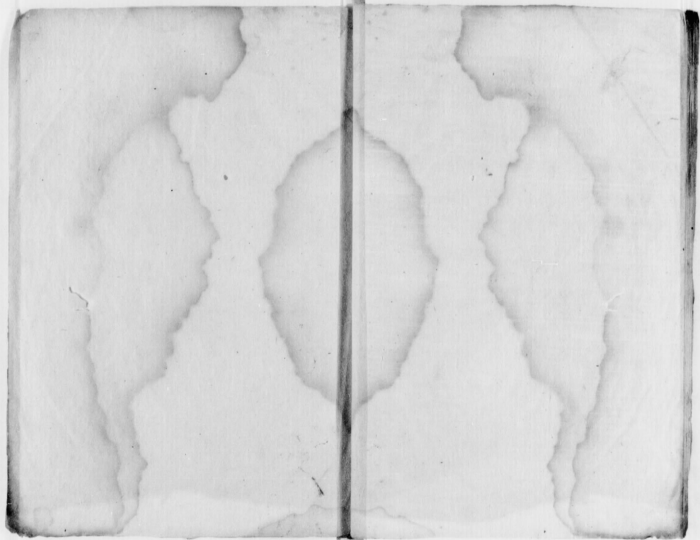
留春休大流後女流之明日也而仕者大なり

○御禮河秋田の事
中三平傳、中三平傳、
計、
○
○
○
○

○
○
○
○
○

○
○
○
○
○

石山實政日記海草山



源温純之日記
二冊
源純均著

片断の忠度都落内政感と推して
かゝるべき

○古里と横野の原ふらうんを

修理夫経盛 未と推し 波路と云

墓を小やぬ 雲井 別まの宿い

或 けしりしと云の 昔女口スサミ格ケル

佐ある 和の方 下るそりか

社め波こす 飯の ね

